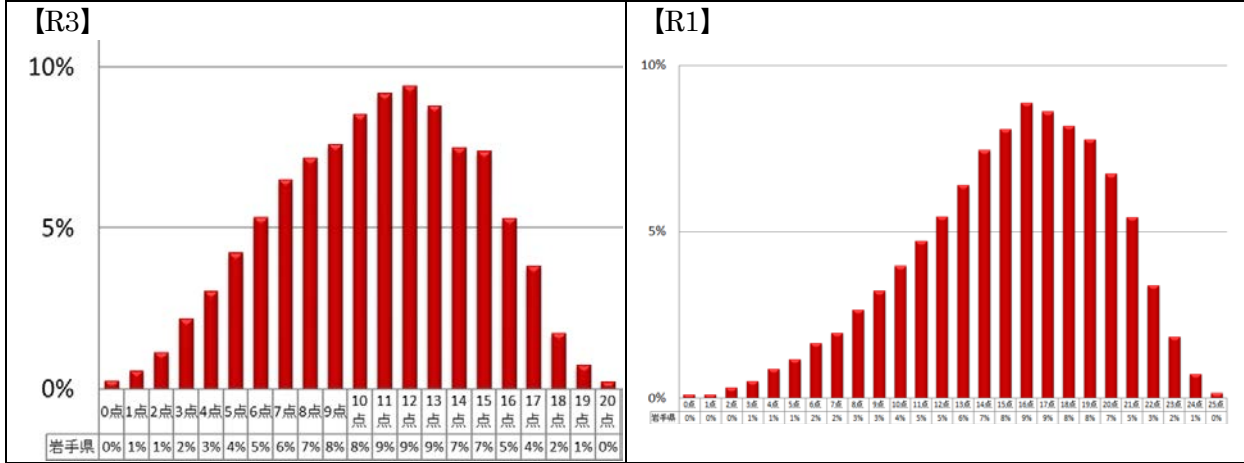


授業改善の手引 小学校第5学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数はR1年度より5問減り、正答数の最頻値は12問、平均正答数は10.7問です。R1年度の分布と比較して山が左に移動しています。平均正答数が5問以下の児童が全体の11.3%となっており、この層に属する児童へのきめ細かな指導が引き続き必要です。（正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数）

(2) 領域等の正答率

観 点 ・ 領 域 等	正答率 ()はR1、
知識・技能 (6問)	57.1% (68%)
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと) (5問)	56.7% (51%)
思考・判断・表現 (書くこと) (2問)	50.5% (54%)
思考・判断・表現 (読むこと) (7問)	48.8% (58%)

(3) 結果概要

- ア [知識及び技能] については、6問出題され、正答率は57.1%でした。
 - 「文脈に沿って、漢字を適切に使う」は良好でした。
 - 「接続する語句の役割を理解して使う」について課題が見られます。
- イ [思考力、判断力、表現力等] (話すこと・聞くこと) については、5問出題され、正答率は56.7%でした。
 - 「必要なことを記録しながら、話の内容を聞く」は良好でした。
 - 「話の内容が明確になるような話の構成を捉える」について課題が見られます。
- ウ [思考力、判断力、表現力等] (書くこと) については、2問出題され、正答率は50.5%でした。
 - 「段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く」「自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く」については、引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- エ [思考力、判断力、表現力等] (読むこと) については、7問出題され、正答率は48.8%でした。
 - 「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えて読む」は比較的良好でした。
 - 「目的に応じて、必要な情報を見付けて読む」について課題が見られます。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善、◇改善傾向、●課題が継続、▲はR1県学調との比較ポイントを表す)

通番号	正答率	比較	調査のねらい
●7(知・技)	33	▲4	修飾と被修飾との関係を理解する。
●11(読)	51	▲7	場面の展開を捉えて読む。
◇15(読)	52	4	段落相互の關係に着目して読む。
◇20(書)	49	3	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。

- 通番号7、11は、今回、前回ともに減少しており、課題が継続している状況です。
- 通番号15、20は正答率が3~4ポイント上昇し、改善傾向が見られましたが、引き続き注視が必要です。

(5) 小問別正答率

5年 国語	調査問題のねらい	学習指導要 領との関連	主な 観点	備考	正答率	選 択 No. (%)									
						1 選択	2 選択	3 選択	4 選択	5 誤答	6 正答	9	0	出題形式	
1	相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話す。	第3・4学年 思判表A(1)イ	話聞		71.8	11	12	72	4	1	0		0	0	選択
2	必要なことを記録しながら、話の内容を聞く。	第3・4学年 思判表A(1)エ	話聞	活用	77.2	0	0	0	0	19	77			4	記述
3	話し合いにおける司会の役割を捉えて聞く。	第3・4学年 思判表A(1)オ	話聞		67.5	10	68	3	18	1	0			0	選択
4	話の内容が明確になるような話の構成を捉える。	第5・6学年 思判表A(1)イ	話聞		23.0	23	23	9	44	1	0			1	選択
5	助言を基に、体験したことを適切な言葉遣いで話す。	第5・6学年 思判表A(1)イ	話聞	活用	43.8	0	0	0	0	45	44			11	記述
6	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年 知技(1)エ	言葉	活用	82.8	11	3	83	1	1	0			0	選択
7	修飾と被修飾との関係を理解する。	第3・4学年 知技(1)カ	言葉	経年	33.2	38	15	11	33	2	0			1	選択
8	文脈に沿って、語句を適切に使う。(対義語)	第5・6学年 知技(1)オ	言葉		57.3	0	0	0	0	42	57			0	記述
9	漢字の由来、特質について理解する。	第5・6学年 知技(1)ウ	言語		65.1	65	10	9	12	1	0			2	選択
10	文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年 知技(1)エ	言葉	活用	55.3	0	0	0	0	31	55			13	記述
11	場面の展開を捉えて読む。	第3・4学年 思判表C(1)イ	読	経年	51.0	30	51	8	4	4	0			2	選択
12	登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えて読む。	第3・4学年 思判表C(1)イ	読		66.1	0	0	0	0	22	66			12	記述
13	登場人物の心情について、描写を基に捉えて読む。	第5・6学年 思判表C(1)イ	読	活用	33.3	14	16	27	33	4	0			5	選択
14	登場人物の心情について、描写を基に捉えて読む。	第5・6学年 思判表C(1)イ	読	活用	59.9	17	9	8	60	2	0			5	選択
15	段落相互の関係に着目して読む。	第3・4学年 思判表C(1)ア	読	経年	51.6	30	12	52	3	1	0			3	選択
16	接続する語句の役割を理解して使う。	第3・4学年 知技(1)カ	言葉		49.1	49	32	3	12	1	0			3	選択
17	目的に応じて、必要な情報を見付けて読む。	第5・6学年 思判表C(1)ウ	読		36.2	29	29	36	1	1	0			5	選択
18	目的に応じて、必要な情報を見付けて読む。	第5・6学年 思判表C(1)ウ	読	活用	43.1	0	0	0	0	48	43			8	記述
19	段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第3・4学年 思判表B(1)イ	書		52.4	0	0	0	0	28	53			19	記述
20	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。	第3・4学年 思判表B(1)ウ	書	経年 活用	48.6	0	0	0	0	31	49			20	記述

2 指導のポイント

(1) 話の内容が明確になるように構成を捉えるとともに、事実と感想、意見とを区別できるように指導しましょう。

ア 問題の概要

② (1) 話の内容が明確になるように話の構成を捉える。
第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「話すこと・聞くこと」(1)イ 正答率 23%

イ 誤答分析

誤答を分析すると、「気持ちがどのように変わっていったかをくわしく話していた」や、「体験したことを話すときは事実だけを話していた」と捉えた誤答が多く見られました。また、構成メモと実際の発表がどのように対応しているのか関連付けられなかったことも誤答の原因だと考えられます。

この問題では、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別したり関係付けたりして話の全体の構成を捉えることが求められます。つまずきの要因として、それぞれの文や段落において、事実を述べているのか、話し手の気持ちや考えを述べているのかについて、区別することが十分にできていないことが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-①】

- (ア) 事実と感想、意見とを区別するためには、接続語や文末表現などにも注意しながら、事実、意見、感想などの関係を明らかにした上で、話の全体の構成について考えさせる必要があります。そのために、構成メモや発表原稿と実際の発表内容を対応させながら、客観的に確かめさせることも大切です。
- (イ) 指導に当たっては、構成メモや発表原稿と実際の発表を比較した上で、事実と考えの対応関係を表に整理したり、検討内容を付箋に整理したりするなど、視覚的に確かめられるようにするなどの工夫が考えられます。特に、「話すこと・聞くこと」の指導においては、発表内容を動画として収録して何度も再生することができる ICT 機器の利点を生かして学習を展開することは大変効果的です。【展開例 参照】

(2) 文脈に沿って、漢字を適切に使うことが求められる学習活動を工夫しましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

③ (3) 文脈に沿って漢字を適切に使う。
第5・6学年〔知識及び技能〕(1)エ 正答率 55%

イ 誤答分析

誤答を分析すると、「関心」に着目し「感心」と記述した児童が多くみられました。選択肢がなかったことから、どの漢字に着目すればよいのか迷った解答も見られました。

この問題では、文脈に沿って漢字を適切に使う力が求められています。つまずきの要因として、習得した漢字を生活の中で活用することに課題があることが考えられます。また、同音異義語について正しく理解し、使用することに課題があることが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-②(1)】

- (ア) 漢字の指導では、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を「読むこと」とともに、当該学年の前 の学年までの配当されている漢字を「書くこと」、及び、当該学年に配当されている漢字を漸次「書くこと」が求められています。同時に、「文や文章の中で使うこと」が求められます。第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期です。したがって、文や文章を書く際には、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付けることが大切です。
- (イ) 指導に当たっては、文や文章の中で活用するために、漢字の形を覚える練習のみならず、生活の中で目に触れる文章の中でどのように使われているか調べたり、意味を考えて短文を作るなど実際に活用してみる言語活動を意識して設けたりすることも効果的です。また折に触れ、自分が書いた文章を見直し、習得した漢字を活用できているか確認する習慣を身に付けるよう指導したり、相互評価を位置付けたりするような指導も考えられます。さらに、他教科等の学習や日常生活の中でも積極的に辞書を用いて語句の適切な使い方を調べられるよう言語環境を整えるなどの工夫が考えられます。

(3) 叙述を適切に押さえながら、描写を基に登場人物の心情を捉える学習活動を進めましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

4 (3) 登場人物の心情について、描写を基に捉えて読む。
第5・6学年〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)イ 正答率 33%

イ 誤答分析

無解答率は5%でした。誤答を分析すると、「レイはサルビアに向き直って、胸元で手を握る」を選択している解答が多く見られました。「胸元で手を握る」描写から、「信じるしかない」という心情を捉えたと考えられます。

この問題では、レイの行動描写の部分だけでなく、その前の壮介や秀明の会話や叙述の部分も踏まえて、レイの心情を捉える力が求められます。そのため、登場人物の行動や表情、会話などの表現に着目して場面の描写を捉える力に課題があることが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-3(1)】

(ア) 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることについては、小学校第5学年及び第6学年(「C読むこと」の指導事項イ)で学習しています。これを受け、登場人物の相互の関係から人物像やその役割と内面にある深い心情を合わせて扱うことが求められます。

(イ) 指導に当たっては、登場人物の心情が、行動や会話など直接的に描写されている場合だけではないことを理解させ、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して、暗示的に示されている表現にも着目するように指導することが大切です。表現の仕方に着目して読む言語活動を設定して、象徴性や暗示性の高い表現や内容に気付くように指導すること、また、場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の相互関係を押さえ、その内面にある深い心情と表現とを結び付けるなどの工夫が考えられます。

(4) 目的に応じて、理由を挙げて意見を書く活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要 【経年比較・活用問題】

6 ②自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。
第3・4学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B書くこと」(1)ウ 正答率49%

イ 誤答分析

無解答率は20%でした。誤答を分析すると、『森林公園への校外学習』の目的に基づいて、選んだ案のよさについて書く」という内容的な条件を踏まえずに、自分なりの考えを書いた解答が多く見られました。また、「2段落構成」「101字以上」という形式的な条件を踏まえていない解答や、2段落構成になっていても内容的な条件を満たしていない解答も見られました。

この問題では、「自分の立場」と「選んだ理由」について、形式的な条件と内容的な条件を踏まえて書く力が求められます。つまずきの要因としては、条件を踏まえて自分の考えを表現する指導場面や、目的を意識して考えを形成する指導場面の不足が考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 中2-5】

(ア) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することについては、小学校第3学年及び第4学年(「B書くこと」の指導事項ウ)で学習しています。これを受け、自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切です。その際、文章全体の構成を捉え、条件を踏まえて書くことも重要です。

(イ) 指導に当たっては、事実と考えを表に整理させたり、考えと理由を付箋に書き分けさせたりし、事実、考え、理由を区別して文章の構成を考えられるようにすることが大切です。文章全体の構成や踏まえる条件を捉えさせるためには、例えば、望ましいモデル文を示して表現のイメージをもたせたり、不完全なモデルを示すことで必要な条件を見付けさせたりすることができます。国語科の授業に限らず、様々な教科等の学習において、理由を挙げて書くことや条件を踏まえて書くことを横断的に指導するなどの工夫が考えられます。

第1時

- ① 学習課題を把握する。
- ② 構成メモ【話すことのメモ】と発表原稿【練習の様子】を対応させる。
- ③ 学習を振り返り、分かったことについてまとめる。

「体験したことが分かりやすく伝わる構成になっているだろうか。」

【話すことのメモ】
職業体験→消防士

- はじめに…消防署長さんの話
→気持ちの変化
- 体験したこと
①放水

【発表原稿】

●はじめに
ぼくたちは、消防署職業体験行きました。はじめに、署長さんから実際の現場にいるつもりで、緊張をもち取り組んでほしいという話がありました。ぼくは、少し緊張をしましたが、この言葉で気持ちを引きしまりました。

●体験したこと
まず、放水体験をしました。消防車からのびたホースをさきり、的に向かって放水をするのですが、水の勢

*対応していることが視覚的に捉えられるように、ICT 機器等を利用して色分けすることも効果的です。

第2時

- ① 学習課題を確認し、前時を想起する。
- ② 発表【練習の様子】を聞いて、山下さんの発表のよさについて話し合う。
- ③ 山下さんの発表について、事実と感想、意見部分を確かめる。
- ④ 【練習後の話し合い】をもとに、発表原稿を見直す。
- ⑤ 学習を振り返り、分かったことについてまとめる。

「体験したことを分かりやすく伝えるために大事なことは何だろう。」

ICT 端末を使って、山下さんの発表練習の様子を聞いてみましょう。よさはどんなところですか？

「はじめに」「次に」というつなぎ言葉を使っているので、順序が分かりやすいところがいいと思ったよ。

昨日勉強したように、組み立てがしっかりしていると、耳で聞いても内容が分かりやすいね。

なるほど、そうか。聞き逃しちゃったなあ。もう一回聞いてみようよ。

やっぱり体験したことを伝えるのだから、実際に見たことや聞いたことが、しっかり伝わるって大事だよな。

見たこと、聞いたことだけでなく、気持ちも伝えていたところもよかったね。

*ICT 端末を用いて必要に応じて発表を繰り返し再生する。

事実や気持ち、考えはどの部分にあったかな？発表原稿をもう一度見直して、体験して見たり聞いたりしたこと（事実）には青、気持ちや考えたことは赤でサイドラインを引いて確認してみましょう。

「行きました。」事実だな。
「おどろきました。」は気持ちだな。
文末が手がかりになりそうだぞ。

分かりやすく伝えるための山下さんの組み立ての工夫がたくさん分かりましたね。さらによくするために、原稿を書き直すとしたらどうするとよいでしょうか。(2)-(2)

【「振り返り」の記述の例】

体験したことを分かりやすく伝えるために大事なことは、考えと事実を分けて話す内容の組み立てを考えることです。そのためには、自分の発表内容をもう一度見直して、考えと事実を整理することが大切だと思いました。また、事実を伝えるために、具体的な数値があると効果的だと感じました。